

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 5 日現在

機関番号：11501
 研究種目：若手（B）
 研究期間：2010～2012 年度
 課題番号：22720148
 研究課題名（和文） 世界英語の一つとしてのアイルランド英語の動態的研究
 研究課題名（英文） Hiberno-English in the Context of World Englishes

研究代表者
 嶋田 珠巳（SHIMADA TAMAMI）
 山形大学・人文学部・准教授
 研究者番号：80565383

研究成果の概要（和文）：

アイルランドにおいて英語はもともと自分たちのことばではなく、いわば外国語、第2言語、第1言語としてのプロセスを経て、独自の文法をもつアイルランド英語として根付いたものである。本研究においては、アイルランド英語の性質を今日の世界の多様な英語変種とともにみていくことによって、接触による文法形成、および地域に根付いた英語に対する話者の言語意識と文法体系への関わりを考察した。フィールド調査に基づいた、アイルランド英語の文法の動態的観点からの分析および記述を基礎として、世界英語諸変種やクレオールなどの接触言語との関係性を明らかにすること。その最初の部分を本研究において展開した。

研究成果の概要（英文）：

Ireland provides an interesting example for examining the transition of an imported variety of English. It has experienced adoption of English firstly as a foreign language and eventually as a first language, via the status of a second language; Ireland has nurtured and systematized its own grammar as Hiberno-English. This property becomes an important reference point in the study of World Englishes. This project has examined the dynamism of Hiberno-English, contact-induced grammatical formation, and speakers' sociolinguistic awareness, based upon my regular fieldwork. The project has undertaken a primary investigation into Hiberno-English in relation with World Englishes, as well as with creoles.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
2012 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：(1) アイルランド英語 (2) 世界英語 (3) 言語接触 (4) クレオール
 (5) 言語変化 (6) 言語意識 (7) 文法 (8) アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

アイルランド英語(Hiberno-English)は一般的にイギリス英語の地域方言であるとみなされているが、その言語現実には説明が難しい。語彙的、音韻的な特徴にアイルランド英語の固有性がみられるだけでなく、テンス・アスペクトおよび情報構造の表現に関する文法的対立といった文法の根幹といえる部分に、標準英語ないしは他の英語変種と区別可能な体系を見出すことができる(拙著 *English in Ireland: Beyond Similarities* (2009))。

研究開始までの調査により、アイルランド語と英語との「第一の接触」によって形成されたアイルランド英語が、現代は他の主要な英語変種との、いわば「第二の接触」のなかでさらなる変化が起こっていることが考えられた。変化についての具体的な調査は当初ほとんどなされておらず、報告者はとくに、現在の話者にあると考えられる二つの言語意識(正しさに関する意識とアイルランドらしさに関する意識、それぞれ *awareness of Standard*, *awareness of Irishness*)との関連においてアイルランド英語の文法を見直し、動的観点からの記述に着手し始めたところであった。

アイルランド英語は、その文法の特性から、クレオール研究や接触言語学分野においても、たびたび有用な事例として紹介されている背景があり、アイルランド英語をその文法的属性を明らかにしながら、よりひろいコンテクストにおいてみていくことを本研究において展開することとした。

2. 研究の目的

世界のさまざまな地域において英語の土着化がみられ、第二言語あるいはリンガフランカとしての英語の使用が拡大しつつある現在の情勢を踏まえ、世界の英語変種の多様な形態に注目した世界英語の研究分野において、当該言語の調査および研究を進展させることをおもな目的とした。フィールドにおける言語調査に基づいてアイルランド英語の動態的研究を充実させ、世界英語研究への事例的および理論的貢献をはかる趣旨である。

3. 研究の方法

フィールドにおける調査に関しては、言語話者の協力を得ながら行う言語調査に加え、自然談話時の音声データを収集した。さらに参与観察、インテンシヴ・インタビュー、アンケートなどの手法を用いることによって、

言語の実態と話者の言語意識についての考察の基盤を得た。

世界英語を中心とした他の英語変種との関連性に関しては、広範な文献調査を行い、その理解のもとでとくに英語変種の連続性に着目した考察を行った。

研究全体を通して、みずから現地で行うアイルランド英語の調査に基づく考察と他の英語変種に関する文献調査の統合と相互検証を行い、言語現象に関する分析をより正確なものにした。調査の結果および考察は適宜、研究発表等において公開し、精緻化をはかった。

4. 研究成果

(1) アイルランド英語に関する調査

アイルランド共和国コーク市およびケリー県において、アイルランド英語話者の言語意識および言語使用の実態に関するフィールド調査を行った。

① 言語的性質に関する調査・記述

情報構造およびテンス・アスペクトに関する文法的対立の表現形式に関する調査を継続した。その考察の一部をまとめ、発表した(論文1、5、学会発表2、5に関連)。

② 言語コミュニティに関する調査・記述

地域の社会歴史的背景および話者の意識とアイデンティティをふくめたアイルランド英語南西部方言の言語環境の基礎的な調査を行った(学会発表7に関連)。

③ 言語意識に関する調査・記述

アイルランド英語の形態統語法的特徴および語彙項目に対する話者の言語意識の記述をまとめた(論文3に関連)。

話者の二つの意識(*awareness of Standard* と *awareness of Irishness*)について、その独立性を検証した(論文4に関連)。

アンケートのデータを再整理し、アイルランド英語の文法・語彙特徴の使用の有無とアイデンティティの関係性に関する考察をまとめた(学会発表4に関連)。

アイルランドの人々の言語意識と文法的性質をまとめ、方言のコミュニケーションとアイデンティティについて考察した(図書1に関連)。

(2) 世界英語と接触言語に関する調査

① 世界英語諸変種

アイルランド英語がさまざまな英語変種との関係でどのように位置づけられるかを考察するため、世界英語諸言語に関する文献調査を行った。

② 接触言語に関する文献調査

接触による言語変化の考察のため、クレオールおよび類型論分野においての文献調査を行った。とくに、カリブ海地域の英語諸変種とクレオールの形成環境に関して文献調査を行った。

(3) 世界の英語変種および接触言語との関連性に関する考察

①世界英語変種との関係性

アイルランド英語は一般的に英語方言としてみなされる一方で、クレオールの特性をもつ言語として考えられる。このような英語の位置づけに関する「二重性」について考察をまとめ、アイルランド英語の文法体系の形成を新言語形成の観点から検討した。接触による言語の形成とコミュニティレベルにおける社会歴史的背景、さらに言語現実などを踏まえ、多面的に考察した(論文2、学会発表6に関連)。

②クレオールを中心とした接触言語との関係性

社会歴史的背景についての人々の意識と文法的性質の観点から、アイルランド英語とクレオールとの連続性に関する研究発表を行った(学会発表5に関連)。とくに、さまざまな文法特徴にあらわれている文法的イノベーションに関して、その発現のプロセスを検討した(学会発表3、5に関連)。

カリブ地域の英語諸変種は、アイルランドからの強制労働者が17世紀半ばにカリブに渡った史実があり、その関連からも関係性に関する調査をすすめた。とくに、カリブ地域に共通の言語特徴の形成である *do be* 形式に関する考察を行った(論文1、学会発表3に関連)。

③移民コミュニティの言語との関係性

接触現象とコミュニティ環境を中心とした考察を、ひろく接触言語としてとらえられる移民コミュニティの言語に関しても行った。アイルランド英語のような言語交替変種とのおもに生態面での比較において、移民コミュニティの言語の性質を検討した(学会発表1に関連)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

[1] Shimada, Tamami. "The *do be* Form in Southwest Hiberno-English and its Linguistic Enquiries", *Festschrift for Professor Hiroshi Kumamoto*, 『東京大学言語学論集』第33号熊本裕先生退職記念号, 2013年3月, 255-271頁.
[URI: <http://hdl.handle.net/2261/53478>]

[2] Shimada, Tamami. "Conference Review: The 16th IAWE: World Englishes Today", *Asian Englishes* vol. 13-2, 76-81頁, 2011年3月.

[3] Shimada, Tamami. "What grammatical features are more marked in Hiberno-English? : A survey of speakers' awareness and its primary details", 『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第7号, 1-25頁, 2010年10月.
[URI: http://repo.lib.yamagata-u.ac.jp/bitstream/123456789/75331/bgsscs_7_00010025.pdf]

[4] 嶋田珠巳. 「言語意識の問題～アイルランド英語の“Irishness”と“Bad Grammar”～」, 『東京大学言語学論集』第30号, 215-231頁, 2010年9月.
[URI: <http://hdl.handle.net/2261/52720>]

[5] 嶋田珠巳. 「アイルランド英語のアイデンティティ 文法的自律性と話者意識」, 日本英文学会第82回全国大会, 『日本英文学会第82回大会 Proceedings』, 98-100頁, 2010年9月.
[掲載誌 URI <http://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-I000008303135-00>]

[学会発表] (計8件)

[1] 嶋田珠巳. 「移民言語とはなにかーコミュニティ環境と接触現象から考える」, 第10回東京移民言語フォーラム, 2013年3月22日, 東京大学.

[2] Delgado, Sally and Tamami Shimada. Exploring linguistic connections between Ireland and the Eastern Caribbean, *6th Eastern Caribbean Islands Cultures Conference on the Languages, Literatures and Cultures of the Eastern Caribbean (6th ISLANDS IN BETWEEN)*, 2012年11月7-11日, バージン諸島大学(米国領セント・トーマス).

[3] Shimada, Tamami. Hiberno-English as a Link: Is there a possible continuum between creoles and this English dialect?, *Creolistics* 9, 2012年4月11-13日, オーフス大学(デンマーク).

[4] Shimada, Tamami. Non-use, no identity? : The assessment of the 'non-use' judgement in 'Irish markers' in Hiberno-English 東京移民言語フォーラム第1回国際シンポジウム, 2011年5月8日東京大学.

[5] Shimada, Tamami. Grammatical Innovations

and Contact-induced Restructuring in
Hiberno-English, *Language Contact and Change
– Grammatical Structure Encounters the Fluidity
of Language (GFSL2010)*, 2010年9月22-25日
ノルウェー科学技術大学, トロンハイム (ノ
ルウェー) .

[6] Shimada, Tamami. Hiberno-English in the
context of World Englishes, *World Englishes
2010 (The 16th LAWE)*, 2010年7月25-27日.サイ
モン・フレーザー大学, バンクーバー (カナ
ダ) .

[7] 嶋田珠巳.「アイルランドの言語接触と二
言語共存」, 2010年6月12日.日本ケルト学
会東京研究会, 慶應義塾大学.

[8] 嶋田珠巳.「アイルランド英語のアイデン
ティティ 文法的自律性と話者意識」, 日本
英文学会第82回全国大会, 2010年5月28-29
日. 神戸大学.

〔図書〕 (計 1 件)

[1] 山形大学人文学部編, 『遠い方言、近い方
言 山形から世界まで』, 山形大学出版会,
全 128 頁, 2012年3月. [共著, 担当章執筆「方
言のコミュニケーションとアイデンティテ
ィーアイルランド英語とともに考える」,
46-56 頁.]

6. 研究組織

(1)研究代表者

嶋田 珠巳 (TAMAMI SHIMADA)
山形大学・人文学部・准教授
研究者番号：80565383